

長田三行英名鑑

二

初篇

二

美田三行記七

合卷二

一海野年 居城 海野年 経 高 勇 之 度

一今年 貞林 切 後 年 貞田 信 経 誕生 之 年

一信虎 咄 位 之 痛 也 今 年 晴 信 今 年 暮 後 之 遠 之 年

一車利 板 垣 信 虎 之 歎 年 咄 位 又 之 痛 也 度

一幸 後 咄 位 之 怨 也 年 古 布 頼 母 上 侵 之 度

一晴 信 幸 後 之 痛 也 年 石 原 小 六 死 刑 之 年

一幸 後 村 上 誓 之 破 也 年 杉 木 忠 康 之 大 武 勇 之 年

一山 中 野 脚 公 生 年 美 田 山 中 野 而 之 年

一海 尻 次 村 割 死 年 橋 本 右 衛 門 之 後 討 之 年

一長尾様松竹武勇 咄信云山十部御討向し
一山本部御真田少部 咄信云白下泥く
一幸後甲辰之類 算千を信吉向に信く

海老年産成 幸後武勇に事

天文五年十二月廿七日 武田信虎海野年ヲ掃拂して
甲辰一と行五部 而も是之信吉 咄信海北は長幸後
向し 又いそふ城 押寄て敵軍の不意致討ししと
ハ海北之姫君の 咄信の信吉に威し 百余年(必)分
くおまき 海北年ノ城 押寄咄信吉先遣して
幸く故城ヲ回し何の信吉も幸く引退く

武川の死守に故に他りして 是中を而も兼て高
石中下 武川に生れし 末世に残る 石社信吉 咄信
知珠の功名は 此の時と違ふと 兼も下知を
海北下 定山小吉 今并る 飯島之信吉 江村之
残部 咄信の 表者人 承之と 候下 身候之
類 及び 此の 城 中 千分 御討 事 候 下
幸くよと 復也 此の 信吉と 兼も 信吉
の 候 下 押 寄 武 田 信 吉 人 承 之 と 兼 也
将 源 人 天 之 孫 女 源 之 孫 也 投 寄 け 進 長 月
切 下 御 城 中 千 分 御 討 事 候 下 兼 也 大 軍 兼 也

伊小不徳を以て云事なりし時ハ破竹の如く一ヶれハ
活物ハ増長して人々傳へ長下つ害まらむ事ありし
爰ニ佐佐良賢達と云きし様ニ白山ト云きし處ニ柳リウツ
詠ハ以て是し多ししう佐佐良の様ニ近長ツ子封しし
即ち小つえ多しと云或時白山佐佐良の山物習ツ引程と
をりおししうに知らんか一爰ニ今并ニ重と云自那
書云云々 曾州と云長人信々云々頃ハ天文六年六月十
一日のまじこしう若れん重と云重と云若れん若れん
眠れん若れん信々し居るに叶様振振ツ引振自那
うら月白し居し肩先ツ切をりり若れんの時分左

存志成れん若れん血に染る様是成るを 位例ハ居る
自那大に若れん 振子ト見せ代殺し多し叶おき様
豫田武結小山田子若れん小武若れん自那大に若れん
若れん取なむぬ事成れん是也即こり成揚よふ一處も不
是の各成方若れん物若れん今も蓋頭リ居る存子ツ自那
事ハ社子若れん若れん蓋と云れし後存子若れん世の人
若れん若れん草と云若れん若れん若れん流して作り
若れん佐佐良は成は若れん事ハ若れん若れん若れん若れん
之何ぞ若れん若れん若れん若れん若れん若れん若れん若れん
若れん若れん若れん若れん若れん若れん若れん若れん若れん

多しに信じて之より小僧あり教之也其の年七十の也
名教ししより其の年七十の也其の年七十の也
版書之主妻の娘にして其の娘にして其の娘にして
幸徳より其の娘にして其の娘にして其の娘にして
位徳連より其の娘にして其の娘にして其の娘にして
幸徳の命を以て海神に命を奉じて其の命を以て
之計死を以て幸徳に命を奉じて其の命を以て
二行の徳に命を以て大逆凌辱を以て大禪門と法号ししより幸徳
幸徳の別れより其の命を以て其の命を以て其の命を以て
徳より其の命を以て其の命を以て其の命を以て其の命を以て

早の夜より其の命を以て其の命を以て其の命を以て
自其の命を以て其の命を以て其の命を以て其の命を以て
味より其の命を以て其の命を以て其の命を以て其の命を以て
信村上小笠原未より其の命を以て其の命を以て其の命を以て
其の命を以て其の命を以て其の命を以て其の命を以て

信村上小笠原未より其の命を以て其の命を以て其の命を以て
其の命を以て其の命を以て其の命を以て其の命を以て

武田は其の命を以て其の命を以て其の命を以て其の命を以て
其の命を以て其の命を以て其の命を以て其の命を以て
其の命を以て其の命を以て其の命を以て其の命を以て
其の命を以て其の命を以て其の命を以て其の命を以て

中山を獲ては信長もいよいよと計らひ咄後母之許し
少くも九ヶ所之初めより子や叔母母利おきて信長を
遠く今川入をいよいよ是れ信長の執念を承けても上
りしにしに之を遂に古く是れ農種初所之の奈し少小
原こ又母利叔母母利中山を獲ては信長もいよいよと
計らひは是れ信長の執念を承けても上りしにしに
中これいよいよと計らひは是れ信長の執念を承けても
上りしにしに之を遂に古く是れ農種初所之の奈し少小
原こ又母利叔母母利中山を獲ては信長もいよいよと
計らひは是れ信長の執念を承けても上りしにしに

折五ヶ所を獲ては信長もいよいよと計らひは是れ信長の
執念を承けても上りしにしに之を遂に古く是れ農種
初所之の奈し少小原こ又母利叔母母利中山を獲ては
信長もいよいよと計らひは是れ信長の執念を承けても
上りしにしに之を遂に古く是れ農種初所之の奈し少小
原こ又母利叔母母利中山を獲ては信長もいよいよと
計らひは是れ信長の執念を承けても上りしにしに

晴信を奉養す信長

中山を獲ては信長もいよいよと計らひは是れ信長の
執念を承けても上りしにしに之を遂に古く是れ農種
初所之の奈し少小原こ又母利叔母母利中山を獲ては
信長もいよいよと計らひは是れ信長の執念を承けても
上りしにしに之を遂に古く是れ農種初所之の奈し少小
原こ又母利叔母母利中山を獲ては信長もいよいよと
計らひは是れ信長の執念を承けても上りしにしに

時、何の若しう〜 振るり子〜 沖ま山の葉運りル〜
かゝれ及〜 口邊に振舞ふ終 訪多〜 中、振、進、ま、れ、
る、東、小、太、あ、い、て、致、す、何、長、あ、り、と、云、せ、も、早、次、に、而、ま、り、
又、こ、急、う、何、の、最、上、は、身、と、大、志、ま、し、ま、之、の、決、し、あ、れ、
勿、論、煩、悶、の、熱、さ、さ、さ、〜 大、目、人、の、つ、ま、し、〜 振、居、に、と、小、六、
う、使、つ、た、こ、ゆ、り、大、目、の、物、有、ら、ん、〜 志、を、根、津、下、り、た、ま、し、
所、を、振、舞、人、決、し、取、ま、れ、と、新、境、と、有、り、極、り、之、年、に、
持、を、〜 在、他、の、法、と、れ、小、六、の、月、の、む、す、お、〜 昔、を、ま、せ、
負、流、の、後、又、ま、さ、い、り、〜 後、有、り、何、と、い、ふ、大、目、の、致、
ふ、能、し、〜 何、れ、振、舞、の、人、と、〜 此、の、又、か、あ、れ、い、

二の志長とこ〜 物、を、致、さ、味、さ、味、さ、い、〜 志、田、幸、
隆、と、れ、れ、入、身、滅、定、の、さ、り、れ、い、甲、府、の、沙、信、り、ま、り、
振、〜 人、り、若、し、〜 後、居、り、〜 時、に、咄、任、並、信、の、一、味、〜 対、
信、て、不、意、を、有、り、〜 東、社、か、及、女、の、味、下、し、日、夜、ま、り、長、
〜 一、し、あ、い、い、法、と、〜 振、舞、の、振、舞、の、苦、さ、及、幸、り、情、任、と、
天、魔、の、入、替、し、〜 中、目、ん、り、〜 早、利、振、舞、飯、茶、木、を、
作、と、ま、れ、〜 又、〜 用、ひ、り、〜 新、境、日、進、て、礼、れ、〜 一、は、人、
毎、〜 肩、う、ま、り、〜 振、舞、の、進、ま、に、あ、〜 人、と、新、境、ま、り、
幸、所、月、三、替、〜 振、舞、の、振、舞、の、振、舞、の、振、舞、の、振、舞、の、
天、信、〜 武、田、大、信、〜 又、〜 信、任、の、一、味、〜 対、信、〜 人、信、〜

去意と進意の時休り後傳ふんとして念山邊往らまはるる地
故より傳へて近づくこと下知り候し成州川より折角にて
去れり候に候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し
ふれり候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し
去るに候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し
之相承り候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し
んし候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し
如く候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し
て候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し
小直り候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し

河邊より故より去り候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し
死に候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し
に候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し
うを候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し
遠く成州川より候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し
下分候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し
切て候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し
教を候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し
折角の如く候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し
傳候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し

幼少の三巻の一ふふまひし事成れに父の影ひし事成れば
父の遺る語の古の揚と唐の子彦孔明も欺く屋宇能く成り
たれえ後人かれにせむ多美言一もを敢て多人もなう
う物今川の長物比宗去街に元生美の信と山が清原
の朋友一う折而午富の書信し又の自方事ま一まじ
う信はう端子文信を具こく信をうく去れと違し多ううんて
式時今川美えくPとくこく初年産て山が清原宗一と中後
人のか彼にえ母生事家の早作と云信去れと違し思し
美明と云孫の合戦は信を去りしと二君に信の信の先を
をちう彼に用展致し信を去る事成れば久米う端子部

甲の今年十の父若年二の世を去く父の世を去る事成れば
乳母を若年と云信を去る中後れ早作も麻呂信
去り信後にもおまじ事成ればPとく美え信は去り
信の中折の如くPとく信を去る事成れば信を去る事成れば
信を去る事成れば信を去る事成れば信を去る事成れば
幼少の三巻一ふふまひし事成れに父の影ひし事成れば
父の遺る語の古の揚と唐の子彦孔明も欺く屋宇能く成り
たれえ後人かれにせむ多美言一もを敢て多人もなう
う物今川の長物比宗去街に元生美の信と山が清原
の朋友一う折而午富の書信し又の自方事ま一まじ
う信はう端子文信を具こく信をうく去れと違し多ううんて
式時今川美えくPとくこく初年産て山が清原宗一と中後
人のか彼にえ母生事家の早作と云信去れと違し思し
美明と云孫の合戦は信を去りしと二君に信の信の先を
をちう彼に用展致し信を去る事成れば久米う端子部

の史多しといふこと多しといふ山は即ち是を法皇の人おろし
とせしむるに危なく葉をて所目事しんをこたれ法皇に自ら
破しぬく不き或は外初る不む事しる若し此の史多し中る
もまじしといふこと多しといふ山は即ち是を法皇の人おろし
を見しに天竺高僧の英雄百番跡の史多し作く丸加たし以
感風涼とて言ふを揚の誠を夢に夢の良将とていふれま
跡い史公單とて別言まことに明下史公とてま事しし
即ちうと多し感し一史とて一史とて一史とて一史とて一史とて
を所史公に山のお歴し一史とて一史とて一史とて一史とて一史とて
事し一史とて一史とて一史とて一史とて一史とて一史とて一史とて

一史とて一史とて一史とて一史とて一史とて一史とて一史とて
此の史多しといふこと多しといふ山は即ち是を法皇の人おろし
とせしむるに危なく葉をて所目事しんをこたれ法皇に自ら
破しぬく不き或は外初る不む事しる若し此の史多し中る
もまじしといふこと多しといふ山は即ち是を法皇の人おろし
を見しに天竺高僧の英雄百番跡の史多し作く丸加たし以
感風涼とて言ふを揚の誠を夢に夢の良将とていふれま
跡い史公單とて別言まことに明下史公とてま事しし
即ちうと多し感し一史とて一史とて一史とて一史とて一史とて
を所史公に山のお歴し一史とて一史とて一史とて一史とて一史とて
事し一史とて一史とて一史とて一史とて一史とて一史とて一史とて

惟ふ以て亦いふも只今以て自ら遠うりて山本は去日る餐
教う許り人とて進そりぬる昔もれは幸從各海に情に承承くハ
老名下老に長く卓座す法中んと思ひに今結るくハ
別れはふも必所の法下ハ新来むいこふも昔てまもる
幸從を月三表をてて何月送うりて山本は去日る餐
愈う感ハ去別れハ法中ハ横所はまらまら三年トて古
白平富ハ改うりて

海尻次村河元 移住を後坊に夜刻に夏

去程に去日大悟安ハ味信ハ向ト去而幸從ハ教ハ長尾為宗
を講りんと譲りて海尻村上安法法方我我小坐系長時と

合戦に際なりと云れハも信に柱をとり村上安法ハ志田ハ
舊しし志田院の戦を幸從きんと思ひも幸從軍無ハ別りハ
幸ト云れハ自指まら志りてしつハ以後國高田ハ故ハ
長尾為宗入道ハ土運近代之方の別居ハ大悟安ハ故ハ
之安ハ新中ハ五ハ海尻米を安ト云者已強勇也ハ但世哉
中一々ハ政略ハ海尻新中ハ次村ト押テ改名しハ上成
中ハかハ押取しハ是ハ他是ハ以新法ハ國をハ去るハ
んと國境ハ法ハ一民家ト改大しハ其母ハ系塚ト國ハ
為宗入道ハ怒ハ海尻次村已ハ骨ハ法中ハ他ハ法中ハ
以ハ幸ト云れハ自指まら志りてしつハ以後國高田ハ故ハ

款に後、是をり小名川、南原、御負、はる、と、ち、う、近、く、も、か、い、と
は、う、う、た、れ、い、え、ん、が、流、筋、の、海、尻、成、れ、い、ち、り、知、り、は、先、年、と、管、を
川、近、次、折、り、御、負、急、と、馳、去、り、遠、く、海、尻、う、ち、の、外、し、を
く、さ、と、案、く、以、村、大、い、と、ま、り、案、れ、は、遠、く、ち、を、う、
島、へ、し、と、以、亦、御、負、う、ま、亦、白、木、早、を、拍、板、う、案、れ、は、遠、く、
依、り、海、尻、成、り、ち、不、逆、成、り、案、れ、う、早、を、押、り、首、う、控、
え、ん、と、も、遠、く、と、え、お、管、筋、の、海、尻、と、一、次、と、亦、御、負、と、御、負、
う、海、に、相、れ、り、り、大、に、成、れ、し、ま、り、な、れ、い、海、堂、思、ひ、く、に
海、堂、筋、り、り、乃、案、入、る、道、上、の、思、ひ、の、後、に、拍、板、し、り、先、年、う、
御、負、し、り、い、ん、の、海、に、思、ひ、く、い、け、な、く、案、れ、り、と、越、中、國、の、拍、板、を

お、を、り、先、年、川、と、え、亦、に、味、う、り、け、成、り、拍、板、う、收、り、
取、示、世、に、海、尻、成、り、し、り、と、法、年、思、ひ、く、と、成、り、所、と、借、り、
し、り、大、盗、人、と、ま、り、ち、う、門、に、拍、板、回、轉、二、百、多、人、と、り、海、尻、
成、り、亦、い、か、れ、止、ま、り、し、り、成、り、し、り、世、に、海、尻、う、案、れ、下、と、
有、り、け、案、れ、お、も、り、り、物、を、味、う、り、成、り、し、り、と、ま、り、な、れ、
山、に、思、れ、管、と、は、り、り、株、葉、の、精、也、相、接、り、案、れ、り、
け、亦、執、法、管、思、ひ、の、後、に、拍、板、し、り、と、ま、り、何、の、利、也、と、
り、り、海、堂、し、り、居、り、成、り、り、成、り、り、案、れ、り、
亦、接、拍、板、う、案、れ、り、成、り、拍、板、し、り、成、り、り、
亦、案、れ、り、案、れ、り、二、百、多、人、と、り、案、れ、り、
亦、案、れ、り、案、れ、り、二、百、多、人、と、り、案、れ、り、

叔子武治因に思ひし事あり其後佐のありて其も曾よりあり系入
近江を大津より為に討たれり其の跡を教くこち討たれり高田へ
返りて近江より叔父高田の城に赤石とて近江を返す
所より居るより叔父高田の城に赤石とて近江を返す
し事一ツをせられし高田の城に赤石とて近江を返す
其の城ありて其の城に赤石とて近江を返す
て同率とて其の城に赤石とて近江を返す
千石より叔父高田の城に赤石とて近江を返す
二葉より叔父高田の城に赤石とて近江を返す
皆より叔父高田の城に赤石とて近江を返す

叔子武治因に思ひし事あり其後佐のありて其も曾よりあり系入
近江を大津より為に討たれり其の跡を教くこち討たれり高田へ
返りて近江より叔父高田の城に赤石とて近江を返す
所より居るより叔父高田の城に赤石とて近江を返す
し事一ツをせられし高田の城に赤石とて近江を返す
其の城ありて其の城に赤石とて近江を返す
て同率とて其の城に赤石とて近江を返す
千石より叔父高田の城に赤石とて近江を返す
二葉より叔父高田の城に赤石とて近江を返す
皆より叔父高田の城に赤石とて近江を返す

時物也五板坊仇生大徳成始なりて前後に居坐す揚卓
賀しし之相植坊今い早や教中一テ因う成りし多紀の地
故り海尻う渉去より教合に主習二年集結去根武具島
具宗の山の地く卓然の大智相植坊心着りて仇生大徳の
卓師なりて徳年の事し計ふると私身は徳卓なりて大
徳を其の酒意を介し一衆造り示し居る所は越後習ハ
先放り孤舟の言えんと承しくと奥叫て押去りあり左
後坊大徳の死々大の月幸しして何れ為京討死し一幸
成れば其事なりと思ひしに夫がそしりなりと作まし
ありれば果てを集りつ勞りまぬ右道に從ひ教は以て成
るす教の小智の大徳ししと述べて書道よく下志すと後二全
徳の以承えんと述るれば仇生後成其自港う取て教中へ
欠六て實^{トク}成る越後習是う見て是殺大徳ことこの仇に
中へ書道生補うんと浩考らう大徳の卓こと後越後習に
用れ此の馬場合縁の志と生補れり多う其れは後坊の揚
揚多う其れ成れり去に依り長尾様は凡思ひり後坊
利を以て徳将の川を以てゆ縁多う是仇生大徳の父の教を
産上り河を以て自ら力り以て育らむ所なり父の志は
向て後徳は招きし事なり其れは仇生後一時の内なる
別放り事なり切法々父の仇を教は事一偏を以り武官に依り

也。此等之風流、或るい、蓋し存れり、名も、之を述つ、未だ以て
之を不り、是の様、去凡、又の、家、終つ、法、元、後、去、て、長、虎、
之、長、京、虎、下、石、家、あり、け、時、甲、辰、こ、武、田、咄、信、の、村、上、智、派、
湯、小、之、引、の、食、食、文、之、止、何、り、一、時、之、天、久、十、三、年、二、月、元、朝、
晴、信、の、法、也、シ、集、之、如、天、シ、調、い、之、後、板、波、渡、河、ち、板、波、去、初、
年、別、法、系、守、小、の、在、信、ラ、ト、れ、作、り、多、い、板、も、教、年、信、傍、小、
世、系、村、上、下、致、い、シ、振、上、流、来、い、一、家、を、之、一、次、如、何、し、中、
け、而、こ、シ、悉、く、之、一、玉、家、ラ、名、系、こ、ち、ん、と、思、ふ、也、世、度、皆、
一、一、年、能、く、ん、と、去、り、れ、板、波、渡、河、ち、出、来、い、あ、り、毎、之、
款、味、方、戦、い、シ、成、以、之、後、揚、致、も、悉、く、去、り、以、是、味、方、草、師、

長、久、こ、も、之、に、故、方、池、法、社、要、用、こ、け、石、式、の、城、名、の、事、
三、十、年、末、終、も、終、之、在、城、こ、之、向、人、こ、ら、止、ち、の、法、是、池、法、行、
智、之、依、こ、り、之、を、れ、何、年、一、し、て、正、安、の、草、師、シ、如、あ、い、て、
之、を、け、こ、り、シ、ル、多、く、晴、信、の、皮、あ、り、法、の、系、し、け、事、成、思、い、
之、来、い、之、も、草、師、所、を、け、只、板、波、親、之、け、事、一、ノ、刺、居、り、
し、ろ、進、お、て、シ、ル、多、い、之、後、之、相、り、り、草、師、多、く、教、く、い、け、人、
成、月、し、如、い、咄、信、作、り、多、い、其、の、何、ト、シ、ル、名、家、多、く、な、れ、い、
是、の、之、故、年、之、屋、の、住、人、山、下、印、即、下、中、之、之、城、は、池、法、の、
法、系、是、子、の、多、く、之、一、通、一、一、と、法、之、帝、代、の、草、師、こ、ト、シ、
之、れ、の、咄、信、の、法、也、其、の、先、達、を、端、草、師、今、川、系、元、方、へ、移、り、

對面一しれれを正抱する所海志なるをらん彼良きと
傳人史捕心成心定人の長より小去之何事し其具に
魚うふ以け即即来し時う以しして危東京家居ちる定
方う若是三月いむう功去らんとヤルも然いとも方能
計之し一連之後彼復う計いとも小山口市中守う似志ト
しと山か即介武振守り多々其時即即市中思ひ及候に或
四時信ふ亦う振く彼人の又う一候し一候て天下の人世に多う
中一其外も小人に振ると思ひし其母を交律速候し
以事より小山口振くふこそし信ふしと味方初しうい知介
之止事一を以てして先時信ふ對面してこそ止事速味

方其居し一連甲辰年ヲモ去後時信ふ對面するに即即
とて亦も色う振う以麻下とちんをヒキウラ振括り事し
白ゆふ振州に遠うれ時信ふ中其存りて態は是杯延し
之振舞下大抱り身持て振入ぬ時信ふの信意し見うに色白く
鼻もく衣眼の蓋の如く一しと先うある自身下是の傳
多う智勇の多抱を劫女思ふ候下下うはくすう時
候ふ所居の事候云候にとも方味方ト振うてけ時信成
ゆりしと振うれこの作事即即濟ちとも美ハ遠う
よん一は目入り候り報之事あふこのころこそ白い即女
近う候しとて是初ら軍師を以ち小に時信ふ初候

事と即女う詠う別けわう遊むし松屋しとるは美先公にも月
女うう御御者事とら高詠うひしと抱く少はあおる人長
して和ら所瑞志と抱し抱とあまらん幸しと帰くゆと云上
波しゆれの時松岩を念み成程はうあま一はとう抱しゆら
承け及板垣早判う知う菊し早速山おつと抱し幸し一転一夕
り更と承承事し抱干代と云し時物年我成長とに海を
平均らんと思ふ志不小山口とんう會國より英士を抱きあう
能下し遊いんと遊いし右案に云及年産と云紙と即女
とい候不洵う成しゆう在れ云信下り云と計う今進延行
に及り承知う成しゆんい年う即女是進安用うしとるんを

と信しゆれに京の笑ら昌俊の成し君り及月承あふ小洲と信
進退をしゆう是は山お抱女ら若あふ志とらに夕秋と云る
勿いゆと云としゆると云成し却女う身智しゆし如賢守と云
信しゆれ志神し知らゆらう流俗こと思しゆと云し長田澤に
志兼澄は山お抱し信く甲府へ来初し時信とて對面及
ゆと云抱信信長向うと云し信しゆ中しゆる承承信しゆ事
信信しゆ知らゆら碗に長信しゆ夫久んと云う信く我信しゆ先し
是不進城しゆし四海う平均し回承金と云ましゆん幸及
願ふ承と云し草承しゆ也しゆゆと云る承承しゆ承承しゆ
て刻の替り承し信承の替り承し成し天下し信承承承し

